日本共産党 和歌山市会議員
ひめだ高宏ニュース
NO.759
'07.3.13

くらしの願いが生きる市政を

2月定例市議会報告

ここしばらく、ちょっと冷たい風が吹く日が続きました。気象庁の桜の開花予想（第1回）では、和歌山市は、27日ということですが、桜が咲く前は少し寒さが必要だとか。和歌山城の桜も、じっとその時を待っているのでしょうか。さて、本号では、7日（水）の私、ひめだの一般質問を報告します。

ギャンブル施設に頼らないまちづくり宣言

質問の1つめは、ギャンブル施設に頼らないまちづくりについて、'02・9、'03・6議会当時は、小松賀にボートピア計画がありましたが宮前小育友会など地元の反対運動が計画を阻止し、今はまた、ぶらくり丁に計画があり、反対運動がおこっています。これまでもJR駅前や築港にボートピア計画が、出島・梅原に場外馬券売場計画があり、どれも地元の反対運動でつぶれています。私は、市内のどの地域でも子どもが住んで困しないように宣言をすべきと提案。市長は拒否。

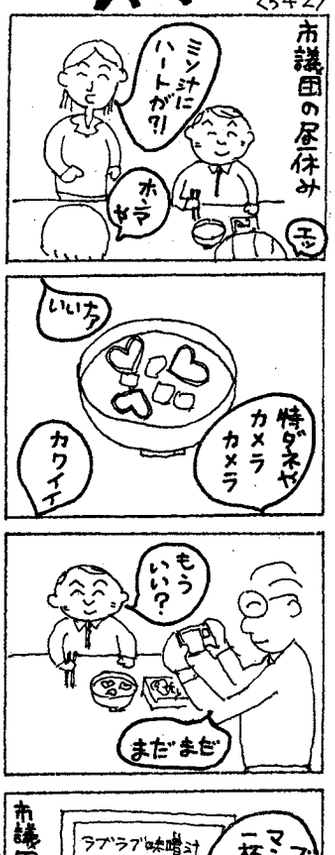
健康診断・人間ドックの助成拡大

質問の2つめは、健康診断の負担軽減と人間ドックの対象人員を拡大することを求めました。

塩屋で開かれた小集会で人間ドックの申し込みがいっぱいで、受けられないという話を聞きました。国民健康保険事業として市が実施している人間ドックは、'02年に4000人から実施し'06年度は1200人に対し1500人の希望者があったということです。

また、基本健康診査の自己負担額は年々あがり、2千円ていれば同じ結果になってきたと指摘。業者が安易に計画しないように宣言をすべきと提案。市長は拒否。

フリーの人々 〈542〉



こんにちは

県会議員の

ふじい健太郎です。

（その188）

3月30日告示、4月8日投票で県会議員選挙が、その2週間後には市会議員選挙が行われます。

県会議員選挙の和歌山市選挙区からは定数16人に対し19人が立候補を表明しています。日本共産党からは、私、ふじい健太郎が2期目をめざし、村岡キミヲ県議が勇退するあとをうけて奥村規子（のりこ）さんが立候補を表明しています。市会議員選挙は定数が42名から40名に減らされたもとで、前回失った議席の回復をめざし6名の立候補を予定しています。

いずれの選挙も激戦で、7月に参議院選挙を控え、各政党とも総力戦の構えでとりくんでいます。

憲法改悪や消費税引き上げを許さないためには日本共産党の議席を増やすことが一番の近道です。

くらしの格差是正や公正公平な行政運営をめざし、住民の立場から改革をすすめる共産党議員団への応援をぜひともお願い申し上げます。

ふじい健太郎 県会議員

000円ですが、国基準は3000円とか。当局は必要性を認めるとの答弁で、市長に特別の努力を要求。

中心市街地「活性化」まず全体計画示せ

質問の3つめは、中心市街地の「活性化」について、市長が2期めの重点課題としていますが、市長選後の06・9議会に旧丸正ビル再生の補助金（国2億、県1億、市2億）が提案され、今議会には、けやき大通りの再開発事業に、同じように補助金が計上されました。

中心市街地活性化の基本計画は、いまだ策定中です。また、これらの事業は、財政再建計画に盛りこまれていません。私、ひめだは、市長が中心市街地をどうしたいのか、市として財政支出をこうすると示して、市民をはじめ地域の理解と合意の上で進めるべきと指摘。

大滝ダム地滑り対策の追加負担金

報道

質問の4つめは、大滝ダムの地滑り対策の追加負担金について、大滝ダムが完成後、水をためたら周辺で地滑りがおこり、再工事が必要と04・6議会に追加負担金が提案されました。当初、市長も議会も「対策は国の責任で」と主張したのに、国にお土れました。この政再建計画に盛りこまれていません。私、ひめだの質疑に答え、大橋市長は「ここ水以上の負担は払うつもりがない」と。ところが、2月10日、京都市で開かれた

介護認定や増税に怒りの声

3月9日（金）夜、塩屋の松本さん宅で小集会を開いていただき、ふじい健太郎県会議員と一緒に、私、ひめだも参加させていただきました。まず、ふじい県会議員から自らの議会活動の議会で、私、ひめだの質疑に答え、大橋市長は「ここ水以上の負担は払うつもりがない」と。ところが、2月10日、京都市で開かれた検討委員会後の記者会見で国は、追加負担の可能性を言及と、毎日や新報が報道。真相と市長の考えを聞き、タイムリーな抗議を要求。

や県政の課題、日本共産党県議団の役割が語られ、私も、今期の議会活動と日本共産党市議団の活動を話しました。参加者からは、介護認定の変更や住民税増税の怒りなどが出されました。

3.10 日本共産党演説会 党議員団の役割語る

3月10日（土）夜、JR駅前のホテルグランヴィアで、日本共産党演説会が開かれました。

私、ひめだは後援会のみなさんとマイクロバス「高松号」で、到着したのが開始3分前。会場は満員で熱気ムンムン。村岡県会議員の司会で、まず、くにしげ秀明参院選挙区候補から、主催者あいさつ。続いて、6人の市議候補が、渡辺・後・南畑・森下・ひめだ・大竹さんの順に、あいさつ。それぞれ持ち味を生かした2分間スピーチでした。

奥村・ふじい県議候補のあとは、山下よしき元参院議員（参院比例候補）が、国・県・市政をたっぷり話しました。迫力あった！

こんにちは 日本共産党です

県議42人と元県議4人に送った公開質問状への回答について発表しました。

回答したのは県議7人だけであり、うちオンブズマンが求めた支出を証明する書類や会計帳簿を公開したのは日本共産党の4人だけでした。政務調査費は、県議個人に年288万円、会派に1人当たり年72万円支給されています。

オンブズマンは「妥当性に欠ける疑いがあるから説明を求めたのに、39人から回答がなかった。公金をチェックする立場の議員が県民から公金の使途について疑惑を持たれるようなことがあってはならない」と批判。今後も追及するとしました。